

吉 水 講 音 頭

池 上 靈 心 作詞
松 濤 基 作曲

はずんで $\text{♪} = \text{♪♪}$ のように



おもいだします あのころを
ならいはじめた あのころは
いままします けいこのひ
なれてよかった おとなえを

かぜのふくひも あめのひも
さそいさそわれ きたおてら
ゆけばあえます みんなのかお
ごせんぞさまに てをあわせ



かよーい
なれーぬ
ならーい
できーぬ

ーまし-た-よ
ーかな-し-さ
ーおぼ-え-た
ーくど-く-も

おてらのーみどーう
ちょうしはーはずーれ
おうたとーおまーい
つませてーもらーう

ならーって
いきーは
きいーて
あすーの



A

-わす-れ-て -わすれ-てなら う
 -きれ-る-し -てあし-もいた い
 -くだ-さ-い -みて--くださ い
 -しご-と-に -せい--もで- る

(サテ-)のびるてさきもしなやかに

A

あしのはこびもささらと もうてうれしいえいさんか〔ソレ

B

一) こえがちいさいはらからだして ちょうしそろえてもういちど

B

ポイント注意

明るくはずんで唱えます。

お囃しは、1、2番はBにて、3番4番はABを唱えます。

(歌詞は116ページ)

よし みず こう おん ど
吉 水 講 音 頭

池上 靈心 作詞

- 1 おも^だ 思い出します あ^{ころ}の頃を
かぜ^ふ 風の吹く日も あめ^ひ 雨の日も
かよ^{てら} 通いましたよ お寺の御堂
なら^{わす} 習って忘れて わす^{なら} 忘れて習う
ソレ (B) こえ^{ちい} 声が小さい はら^だ 腹から出して
ちょうし^{そろ} 調子揃えて もう^{いち} 一度

- 2 なら^{はじ} 習い始めた あ^{ころ}の頃は
きそ^{きそ} 誘い誘われ き^{てら} 来たお寺
なれぬ^{かな} 悲しさ ちょうし^し 調子はずれ
いき^{てあし} 息はきれるし 手足も痛い
ソレ (B)

- 3 いま^ま 今じゃ待ちます けい^こ 稽古の日
ゆ^あ 行けば会えます みな^{かお} 皆の顔
なら^{おぼ} 習い覚えた お歌^{うた}とお舞^{まい}
き^{くだ} 聞いて下さい みて^{くだ} 下さい
サテ (A) のびる^{てきき} 手先も しなやかに
あし^{はこ} 足の運びも さらさらと
も^{うれ} 舞うて嬉しい えい^{さん} 詠讃歌
ソレ (B)

- 4 なれてよかった お^{とな} 唱えを
ごせん^ぞ 御先祖さまに て^あ 手を合わせ
できぬ^{くどく} 功德も つま^せ 積せてもらう
あす^{しごと} 明日の仕事に せい^で も出る
サテ (A) ソレ (B)

(楽譜は 1 1 4 ページ)